

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム本来の理念はあるが、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念とは言えない。ただし、できるだけ地域との関わりが持てるよう、部門内の目標設定に努めている。	○	今後、こすもす独自の理念を職員と共につくり上げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念を理解し、実践に向けて取り組んでいるとは言えない。	○	こすもす独自の理念をつくり、目に付く場所へ掲示し、朝礼等で毎日読み上げていくことで職員の意識を高め、実践に向けて取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約の際は、必ずご家族に運営理念を説明し理解して頂いている。地域住民の方々には、見学や入居申込みの際にパンフレット等を使用して説明しているが、取り組みとして十分とは言えない。	○	地域住民の方々にも少しでも理解して頂けるよう、まずは運営推進会議を開催することから始めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	こすもす周辺を散歩する際に出会う隣近所の方々と挨拶を交わしたり、行事を行う際は可能な限り参加を呼び掛けている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者様の体調を考慮しながら、無理なく近隣のお店へ買い物便として外出している。しかし、地元自治会とのつながりは十分とは言えず、行事や地域活動への参加、交流ができていないのが現状である。	○	運営推進会議等を利用し、地元自治会との交流の機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>星風会北エリア行事でもある「こすもすフェスタ」を年1回開催し、施設見学やボランティアの受け入れを行い、地域の方々との交流を深めている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価の結果をWAMNETにて確認し、改善が必要と思われる点を職員会議等で話し合い取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については、入居時にご家族へ説明しているが、開催までには至っていない。</p>	<p>○</p> <p>ご家族・地元自治会・包括支援センター等の職員の方々と連携を図り、早急に取り組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事前に日程の調整をし、サービス提供に関することや入居者の状態等を直接訪問した上で報告し、情報交換を行っている。また、地域の高齢者に関する情報等は包括支援センターを通してお互い連携を図っている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>昨年5月までは地域権利擁護事業を対象とした入居者が生活されていたため、制度上の理解はできているが、勉強会等で学ぶ機会を持つまでには至っていない。</p>	<p>○</p> <p>内部研修等で勉強会の機会が持てるようにしていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、今年度の内部研修の中で勉強会を行い理解を深めた。特に言葉かけが入居者の心理面に大きな影響を与えることを学んだ。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、必ずご本人とご家族の意向を確認し、不安や疑問点について時間をかけて話し合っている。解約時においても誤解が生じないように、第一、第二保証人様に来所して頂き、十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は常に利用者様の状態観察に努め、相談にのり易い環境を提供している。要望等がある場合は、事業所内の「ご要望情報」を活用したり、介護支援計画の中に反映させているが、利用者様の重度化に伴い、年々少なくなってきたのが現状である。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>状態の変化や内服薬の変更等、利用者様に関することはその都度報告している。職員の異動についても、面会時を利用して直接お会いした上で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>改めて機会を設けてはいないが、面会時や利用料金支払い時に職員との何気ない会話からご家族の意見や本音を聞くことができるため、このような時間を大切にしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>新しい試みとして、運営者は施設ごとの食事会を設け、各ユニットの意見を聴きながら、ボトムアップを図っている。その反面、管理者は、ユニットごとの責任者に、必要に応じて意見を求めているが、職員全体から意見を求める機会は、なかなか設けることができない</p>	<p>○ 職員全体から意見を吸い上げることができるよう、機会を設けていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院や市の集団検診等では、できる限りご家族の都合に合わせた勤務体制をしいている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年1回の法人内の異動はあるが、できる限り利用者様との馴染みの関係を築くためにも、3エットの内部異動にとどめるようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、施設外研修等、必要に応じて機会を確保している。</p>	○	<p>全ての職員に機会を与えていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所と積極的に交流する機会はなかなか設けられていない。</p>	○	<p>施設見学等、交流の機会を設けていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員住宅の増改築、年間休日を増やす等々、福利厚生事業を強めている。</p>	○	<p>更に一層、職員の働きやすい環境整備を行うよう、会議等で、出席職員からの意見を求めている。一つの提案として、職員一同が参加できる夏祭り、忘年会の計画、職員旅行の見直し等を検討事項として提案している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>責任と権限をできる限り明確にしている。</p>	○	<p>こすもすに限らず、全施設共通の帳票、書類などは、横断的展開の中で、常に連携をとりあいながら、進めて行くよう指示をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談はご家族が中心であるが、利用前には必ずご本人と面接を行い、生活上の困りごとや入居に際しての不安などを確認するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談から入居に至るまでは、何度も連絡を取り合ったり来所して頂き、ご家族の不安な気持ちを受け止められるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直ぐに入居できず、ご家族の介護力だけではどうしても在宅生活の継続が困難である場合等、在宅サービスの利用方法や他の施設の紹介を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰り利用や体験利用を通して、最終的にご本人、ご家族の意向を確認した上で入居して頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の今までの生活歴を大切にしながら、できることは職員と一緒に、「共に生活している」という気持ちを持って頂けるような関係づくりに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には普段の生活の様子を報告している。また、介護支援計画の交付の際に、ご本人との関係づくりの大切さについて説明し、協力を呼び掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居申込みの際に、今までの生活状況やご本人とご家族の関係性について確認している。入居以降も定期的に連絡、報告することに努めているが、ご家族の事情等もあり、なかなか利用者様の希望に添えない面もある。しかし、面会時間を利用し、一緒に過ごせる時間を大切にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも、近所の方や親戚、兄弟の面会があれば、継続していけるよう呼び掛けている。また、そのことをご家族の面会時に報告することで、更に関係性が保たれている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の進行に伴い、行動障害が顕著に現れる利用者様については難しいが、簡単な家事と一緒にいたり、レクリエーションを通して利用者様同士が関われる時間を大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要な方には、包括支援センターや施設、病院の連携室等と連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度ご本人の意向を確認し、可能なことは叶えられるよう努めている。ご家族の協力が必要な場合は、来所時に相談し検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みの際に必ず確認し、入居が決まり、実態調査（ご本人との面接）を行う際にも再度確認し、把握することに努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人ひとりの状態を把握し、その方に合った過ごし方を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	普段からご本人、ご家族の意向を確認し介護支援計画に反映させているが、ケース会議では介護職員が中心となって話し合うため、どうしても医療的な関わりが必要な利用者様への支援が不十分になりがちである。	○	現在週1回（毎週水曜日）の訪問看護の利用を受けているため、必要に応じ、ケース会議に訪問看護師の出席も依頼していきたい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援計画は基本的に6ヶ月ごとに見直しているが、状態の変化等により随時見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はあるが、行事や特別な変化等があった場合の記載が中心となっている。これらのことも介護支援計画の見直しの際に活かしているが、介護支援計画書自体が評価できる記載までには至っていない。	○	介護支援計画に沿った記録の仕方を学び、評価の際に活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ある程度の時間に沿ったサービス提供になりがちではあるが、ご本人やご家族の状況に応じ、急な依頼(面会・外出・通院等)があった場合でも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、このような関係機関との関わりを持っている利用者様はいないが、今後必要があれば協力体制をしいていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している利用者様はいないが、必要に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ、入居者の状況を包括支援センターへ報告したり、地域から申込みのあった方の情報を確認したりすることはあるが、権利擁護や長期的なケアマネジメントのための協働までには至っていない。	○	今後、このような入居者が増えることが予想されるため、包括支援センターとの関わりを大切にしていきたい。やはり、運営推進会議を開催していく中で取り上げていくべき課題であると思う。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係性を大切にした上で、入居時にご本人とご家族へ必ずかかりつけ医をどこにするか意向を確認している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	外部の医師との関係性は十分とは言えないが、法人と契約している神経内科医師が週1回往診しているため、職員側の対応の悩みや薬に対するアドバイス等を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	昨年9月以降、法人内の訪問看護ステーションと契約を結び、週1回の訪問を継続している。一人ひとりの状態に合った観察のポイントなどアドバイス頂くことで、その後の支援に役立っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご家族の了解も得た上で医療連携室や病棟と定期的に連絡し合い、病状の経過を確認したり、施設内での生活の様子を伝えている。退院前にはご家族同席のもと、できる限り主治医からのお話も伺えるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に、重度化した場合や終末期への対応についてご家族に説明、意思確認を行っているが、それらを記録する様式が十分に整備されていない。また、全員が方針を共有しているとは言えない。	○	記録の整備と同時に、重度化や終末期に向けた方針を関係者全員が共有できる体制にしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や訪問看護ステーションと共に支援に取り組んでいるが、全職員が重度化や終末期に対しての考え方が統一できていない。	○	こすもすとしての重度化や終末期に対する支援の在り方を再確認し、全職員が定期的に勉強できる機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	利用者様に対する職員の関わり方で気付いた点は職員会議等で話し合い、改善を目指している。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	一日の流れの中で、その方がやりたいと思っていることがある時はお話をよく聴き、その方に合ったペースで少しでも希望に添えるよう援助していきたい。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		起床時に身だしなみを確認し、常に清潔に、その人らしい身だしなみを大切にしている。理美容は入居前の行きつけのお店にご家族と一緒にいられる方や希望があれば訪問理容師さんに来て頂いている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三度の食事は職員と共に同じものを食べ、和気あいあいの食事時間を大切にしている。一部の利用者様に偏ってしまうが、テーブル拭きや後片付けを行って頂いている。	○	後片付けだけでなく、時間がかかっても簡単なものから一緒に作れるよう努力していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間(水分補給時)には何が飲みたいのかを確認し、希望される飲み物を提供している。おやつは、昔なつかしいものやその方に合った食べ易いものを提供している。また、毎月ではないが、行事等の食事メニューの中に、利用者が希望する食べ物を組み込むようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンを確認し、不快感を与えないよう、その方に合った声かけと誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	棟ごとに1日おきに入浴して頂いている。行事の時は中止になってしまうことが殆どであり、利用者の希望に沿った入浴援助とは言えない。しかし、一人ひとりに合った入浴方法でゆっくり時間をかけて入浴して頂くことに努めている。	○	職員の都合を優先することなく、入りたいという希望があれば叶えてあげたい。また、失禁してしまった場合など、その都度考慮し清潔保持に努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた好みの寝具類を使用している。寝具、リネン類は洗濯を定期的に行い、清潔な寝具で休んで頂いている。昼間傾眠がちな方には30分～1時間程度の昼寝の時間を設けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い日はできる限り散歩や買い物便に出掛けているが、冬場はどうしても外出の機会が減ってしまう。施設内で過ごす時間が多い利用者様にとって外気に触れることが一番の楽しみ、気晴らしとなっている	○	外へ出ることを希望する利用者様には、もう少し散歩を増やすなど、個別の支援を提供していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして毎月ご家族より頂いているが、職員側で管理している。しかし、買い物便に出掛けた時などは、職員は側で見守り、購入したものは自分でレジで支払える機会を提供している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を多く希望する利用者様もいるため、毎回希望に添えない場合もあるが、天候の良い日はできる限り散歩や買い物便に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天候や季節によって計画できない月もあるが、お弁当持参で近隣市町の公園へ出掛けることもある。	○	今後は外食の機会を可能な限り増やしていきたい。ご家族との外出は多い方でも月に1~2回程度であるが、引き続き協力を呼び掛けていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用件を伺い、職員側から電話をかけてしまうことが多い。実際に希望する方がいても、話の内容が理解できないのではないかと職員側で決め付けてしまっている。	○	電話や手紙を希望する利用者様に対しては、予めご家族と相談し、了解を得てから行ってきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでも受け入れ、ご家族や友人の方々と一緒に居室でゆっくり過ごして頂いている。希望があれば、ホールのソファでも過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を職員一人ひとりが理解できるよう、今年度は資料を配布し内容を確認し合った。また、利用者様には自由に過ごして頂けるよう、危険のない限り見守りを重視しているが、職員側の都合を優先してしまうあまり、つい声かけが強くなってしまっていることもある。	○	身体拘束に対する理解を更に深めるため、定期的に勉強会（内部研修）を行っていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険のある場所(浴室)以外は鍵をかけないようにしている。夜間は外部からの侵入を防ぐため玄関を施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安否確認表を作成し、時間ごとに所在や様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤類等、注意が必要なものは利用者様の目の届かない場所に保管し、それ以外のものは職員の見守りのもとで管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の連絡方法についてはマニュアルを作成しているが、危険性が高い病気への対応には不安がある。防火訓練、夜間召集訓練は年2回実施し、火災に対する知識を学んでいる。	○	訪問看護師による内部研修を開催し、病気に対する知識を学んでいきたい。またマニュアルも作成していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者様一人ひとりの状態観察のポイントは訪問看護師に確認しているが、応急手当や初期対応の訓練は行っていない。	○	訪問看護師や消防署の方をお呼びし、定期的な訓練を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難誘導訓練を実施し、避難経路と避難場所の確認を行っているが、地域住民の方々への協力は呼び掛けていない。	○	施設の避難誘導訓練には近隣地域の方にも参加して頂き、日頃から協力を体制をしいていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者様の状態変化に対しては、その都度ご家族へ報告し、状況を説明している。また、転倒の危険性のある方や認知症による行動障害等で内服薬の調整が必要な方についても、その都度報告し、来荘時に対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定(14時/19時)以外に、食事摂取量や排泄状況の観察、入浴時の皮膚状態の観察に努めている。普段の会話などからもその方の表情や声の調子で異変の発見に努めている。変化があった場合は、必要に応じ医師の往診を依頼している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度は服薬に関する内部研修を開催し、利用者様一人ひとりの薬の目的、副作用等について確認し合った。効能についての説明書は、いつでも見られる場所に保管している。また、臨時薬が処方されている方についても服用後の経過を観察し、定期的に医師へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を把握し、便秘がちな方には水分補給の頻度を多目にしたり、便秘薬の量を調整している。また、散歩やラジオ体操で身体を動かす機会をできる限り設けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には歯磨きを励行し、職員見守りのもと実施している。磨くことが困難な利用者様には、液体歯磨き(刺激の弱いノンアルコールタイプ)を使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、バランスのとれた食事を提供していると共に、一日に必要な水分補給を行い、希望があれば随時提供している。また、月1回体重測定を実施し、食事量の調整を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、利用者様は毎年インフルエンザ予防接種を実施している。ノロウイルス対策として、共有設備と食器類は毎日漂白剤で消毒し、手洗いうがいを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理済みの食材は2時間を目安に破棄し、食器と調理用具は漂白剤を用いて消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは毎日掃除し、来客者に気持ちよく出入りして頂くことに努めているが、花壇や鉢植えなどが少ないように感じられる。	○	ガーデニングの機会を設け、利用者様と一緒に玄関や建物周囲を季節の花や鉢植えなどで、きれいにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、家庭的な木目調のものを使用している。また、季節に合った壁画などを一緒に作成し、居心地のよい空間づくりに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファがセットされており、利用者様同士談話されている姿が常に見られる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた好みの寝具類等を持ち込み、一人ひとりに合った居心地のよい居室に配慮している。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は随時行い、冷暖房の設定温度を決め、常に利用者様に合わせた対応をしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーとなっており、共用部には手すりが設置してある。また、浴槽内からの立ち上がりが困難な利用者様には、浴槽内用の椅子を準備し、状況に応じ使用して頂いている。</p>	○	<p>浴室と脱衣室内に手すりの必要性があるため、今後取り付けを検討していきたい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>掃除や洗濯たたみ、食器拭き等ができる方には可能な限り行って頂いている。失敗があったとしてもできていることを評価し、感謝の気持ちを伝えている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>季節によっては中庭でお茶会を楽しんだりすることもあるが、段差等もあり、なかなか活用しきれしていない。</p>	○	<p>中庭に花や野菜を作れるスペースが設けられるよう検討していきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して8年目を迎えるが、年々利用者様の要介護度も上がり、簡単な家事や外出支援が困難になってきている。そのような中でも、できる限り利用者様の残されている力を活かして、普段からできることを行って頂いたり、今まではなかなか外出の機会が持てずにいたが、職員が一生懸命に企画し、バスハイクや外食の機会が少しずつではあるが持てるようになってきた。利用者様のために何ができるのかをもう一度考え、利用者様のためのサービス提供に努めていきたい。また、同じ法人内には在宅のケアマネジャーがおり、老人保健施設、特別養護老人ホーム等もあるため、相談員との連携が図りやすく、利用者様の状態に合った施設を選択して頂くことができる。